

スペース節約のため、ベクトルを横に書きます。縦で書き直した方が計算しやすいと思います。

問題 1. 次のベクトルの組は \mathbf{R}^4 の基底か?

- (1) $v_1 = (1, 1, 0, 0)$, $v_2 = (0, 1, 1, 0)$, $v_3 = (0, 0, 1, 1)$, $v_4 = (1, 0, 0, 1)$
 (2) $v_1 = (1, 1, 0, 0)$, $v_2 = (0, 1, 1, 0)$, $v_3 = (0, 0, 1, 1)$, $v_4 = (1, 0, -1, 0)$
 (3) $v_1 = (1, 1, 1, 1)$, $v_2 = (1, -2, 4, 8)$, $v_3 = (1, 3, 9, 27)$, $v_4 = (1, -4, 16, 64)$

問題 2. $A = \begin{pmatrix} 1 & -3 & -1 \\ 0 & 4 & 2 \\ 2 & 0 & 1 \end{pmatrix}$ とする。

- (1) $\text{rank } A$ を求めよ。
 (2) $V := \{u \in \mathbf{R}^3 \mid Au = 0\}$ とおく。 V は \mathbf{R} ベクトル空間であることを示せ。(教科書 p. 99, 例 4.1.5 (4) 参照)
 (3) $\dim V$ を求めよ。

問題 3. $v_1 = (2, 1, -1, 3)$, $v_2 = (1, 4, 0, 1)$, $v_3 = (0, 3, 2, 0)$, $v_4 = (-1, 0, -1, -2) \in \mathbf{R}^4$ とし, $W_1 := \langle v_1, v_2 \rangle$, $W_2 := \langle v_3, v_4 \rangle \subset \mathbf{R}^4$ とおく。

- (1) $\dim W_1, \dim W_2$ を求めよ。
 (2) $\dim(W_1 \cap W_2)$ を求めよ。
 (3) $\dim(W_1 + W_2)$ を求めよ。

問題 4. V が有限次元で $W \subset V$ が部分空間であるとき, W も有限次元であることを示せ。

補足. (1) 講義の命題 4.6 の証明をよく見ると, V のベクトルの組 v_1, \dots, v_n が 1 次独立で, n 個より多いベクトルの組が 1 次独立にならないとき (このとき $\dim V = n$ です), v_1, \dots, v_n が V の基底になることがわかります。 $V = \mathbf{R}^4$ の場合, $\dim \mathbf{R}^4 = 4$ であることはわかっていますから, 1 次独立なベクトルの最大個数は 4 です。よって問題 1. (1) ~ (3) の各組は, 1 次独立であれば基底であり, 1 次独立でなければ基底ではないことになります。 $A = (v_1 \ v_2 \ v_3 \ v_4)$ という 4×4 行列を考えると, v_1, \dots, v_n が 1 次独立 $\iff \text{rank } A = 4 \iff |A| \neq 0$ です。

(2) 講義の補題 4.1 を証明するときに使った

$$(a_1 \ \cdots \ a_n) = (b_1 \ \cdots \ b_m)C \quad \cdots \quad (*)$$

(教科書 p. 108 も参照) という書き方は誤解を招くかもしれません。考えているベクトル空間が $V = \mathbf{K}^N$ で, 各 a_i, b_j が縦ベクトルで書かれていれば, 上の式は行列の間の等式として意味があります (演習問題 3 の問題 3 を参照)。しかし一般には, 等式 (*) は形式的なものと考えた方がよく, 各 b_j をあたかもスカラーのように考えて, 右辺を「 $1 \times m$ 行列」と $m \times n$ 行列の積のようにみなして計算すると, V の n 個のベクトルの列が得られ, それらは左辺の a_1, \dots, a_n にそれぞれ一致する, という意味です。このような書き方は慣れると便利で, $x_1, \dots, x_n \in \mathbf{K}$ に対し, 形式的に

$$x_1 a_1 + \cdots + x_n a_n = (a_1 \ \cdots \ a_n)x, \quad \text{ただし} \quad x = \begin{pmatrix} x_1 \\ \vdots \\ x_n \end{pmatrix}$$

と表すことにすると, a_i, b_j たちが (*) のような関係にあるとき

$$(a_1 \ \cdots \ a_n)x = (b_1 \ \cdots \ b_m)y, \quad \text{ただし} \quad y = \begin{pmatrix} y_1 \\ \vdots \\ y_m \end{pmatrix} = Cx \quad (\text{これは通常の行列とベクトルの積}),$$

つまり $x_1 a_1 + \cdots + x_n a_n = y_1 b_1 + \cdots + y_m b_m$ が成り立ちます (確かめてみてください)。つまり, 通常の行列とベクトルの積と同じように, (*) に右から x をかけてもよい, ということです。